

『JPRO:情報科学科卒業生の会』に入ろう！

村里 勇毅
Yuki Murasato

SCSK 株式会社
SCSK Corporation
<http://www.scsk.jp/>

1. はじめに

在学生のみなさんこんにちは。一期生の村里です。この度 JPRO の紹介という貴重な機会をいただきましたのでしばらくお付き合いください。

私は数年前に『JPRO:情報科学科卒業生の会』という組織を設立しました(以下『JPRO』と称す)。この組織は、会の方針に賛同いただける情報科学科の**卒業生**と**先生方**で構成されています。『情報科学科のますますの発展に寄与する』ことを組織方針とし、以下の2点を目的とした様々な活動を展開しています。

- ・情報科学科卒業生の**大学との接点**を増やす
- ・情報科学科卒業生の**業務経験・スキル**を活用する

今回は『活動実績』『JPRO を組織した理由』『活動エリアと支部』について紹介させていただきます。

2. 活動実績

JPRO はこの数年間、大学と連携して様々な活動を展開しています。その中でも主要な3つの活動が『卒業生講演会』『オープンキャンパス卒業生ブース』『IT 産学技術交流会』です。

2.1. 卒業生講演会

卒業生が講師という立場で2年生のみなさんに向けて講演会を開催しました。この講演会は『学生に将来像をイメージしてもらう』ことを目的とした内容で、卒業生に90分間の講義を行うというものでした。普段の授業とは一味違った雰囲気や、リアリティに溢れたIT現場の裏話が織り交ぜられた内容がとても好評でした。



※講演会の様子

2.2. オープンキャンパス卒業生ブース

2016年の夏・冬、2017年の夏に開催されたオープンキャンパスに『卒業生ブース』を出展させていただきました。卒業生ブースでは『オープンキャンパス来場者に将来像をイメージしてもらう』ことを目的として『進路相談:プロによるIT業界紹介』『学部紹介:卒業生の声』という2つのコンテンツを展開しました。実際に学部で学んだ卒業生とのコミュニケーションということもあり、来場者の方々からは様々な質問が飛び交っていました。



※オープンキャンパスの様子

2.3. IT 産学技術交流会

IT業界の『研究者のプロ』である先生方と、『現場のプロ』である卒業生の交流を目的とした交流会を東京と福岡で開催しました。この会は卒業生と教員がアカデミックに議論する場が欲しいという某教授のご要望から

生まれました。在学時には雲の上だった先生方と、対等に肩を並べて議論する卒業生の姿に先生方はとても喜んでいました。



※交流会の様子

3. JPRO を組織した理由

私は卒業して約 10 年間、様々な形で延べ 300 人以上の『卒業生』『先生方』『学生』のみなさんとお話をする機会がありました。その中でいくつかのある事実に気づきました。

3.1. 卒業すると大学に来る機会がない！

卒業すると大学に来る機会は驚くほど無くなります。社会の荒波にもまれて必死でもがいているうちに、楽しかったキャンパスライフは遥かかなたの遠い記憶。。。という感じです。大学に来る理由が無いというのが現状です。

ただ、ごくまれに、久しぶりに大学に来る『理由(=機会)』をつかんだ卒業生が出てきます。私はそんな人たちと接する機会が多かったのですが、ほとんどのケースで本当に楽しそうに充実した時間を過ごせたと言っていました。また、卒業生の活躍を聞く先生方もとても嬉しそうだということに気づきました。

3.2. 2000 人以上のノウハウが蓄積されている！

2002 年に九州産業大学に情報科学部が設立されて 15 年が経ちました。2017 年現在で 2000 人以上の卒業生がいます。7 割が IT 業界に就業しているとして約 1500 人の IT 技術者を輩出していることとなります。

1500 人の人財というのは物凄いことです。ただ、その人財のほとんどが、卒業後に大学との接点を失っているというのが現状だということに気づきました。

このように、沢山のひとと接する中で、とても大切な気づきを得て、私の中では『卒業生が大学に帰る理由を創りたい』『2000 人のノウハウを大学に還元したい』という想いが強くなってゆきました。その想いを少しずつ発信してゆき、賛同してくれる協力者も増え、人の輪が徐々に大きくなってゆきました。そのような流れの中で、想いを実現する組織として『JPRO:情報科学科卒業生の会』を設立しました。

4. 活動エリアと支部

JPRO は九州産業大学そして IT 業界に密接な関わりがあります。その特性上、活動エリアは『福岡』および『関東(特に東京)』になることがほとんどです。そのため、福岡に『九州支部』、東京に『関東支部』を設置して各支部長を置いています。今回、各支部長からのコメントをもらっていますので、紹介します。

4.1. 九州支部 支部長 杉本 至 07JK055

(1) JPRO の活動を通して感じたこと、気づいたこと

学生時代に情報システム研究会という情報科学部の組織に所属していたからか、同じ学部の先輩や卒業生と会う機会がほかの方に比べて多く、「私が卒業しても先輩方みたいに後輩と気軽に接していきたい」と思ったからです。実際関東で就職してからはそんなに大学に行く機会はないのですが、福岡に帰ってくるたびに先輩や院に進学した同級生、後輩に声をかけられるととてもうれしく思います。

(2) 学生のみなさんへ一言

学生の皆さんには今の時間を全力投球で過ごしてほしいです。月並みな考え方ですが、大学生活というのは「時間もお金もたくさんはないけれど、まあまあ自

分の裁量で何とかなる」という期間じゃないかなと思います。めいっぱい遊び、学び、考え、悩み、そして楽しんで自分にしかないオリジナルの学生ライフを彩ってくださいね。

(3) 先生方へ一言

卒業してしばらく経つと何となく研究室の雰囲気が懐かしいというか、恋しくなる時があります。それは学部の雰囲気が好きだったというもありますが、先生方がいつも学部棟にいらっしゃるという安心感も一つの理由かもしれません。卒業後も何かと気にかけてくださる先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。これからもお互いに近況報告、情報交換を通して交流できたら幸いです。

4.2. 関東支部 支部長 井手 美華 11JK011

(1) JPRO の活動を通して感じたこと、気づいたこと

JPRO で集まったメンバーとともに、今後の活動を通じて協力していきたいと思っています。しかし現在卒業生同士で連携が取れていないことも浮き彫りになり、卒業生同士の情報交換、在校生へのアドバイスなどもできていませんでした。また、活動メンバーと交流することで、卒業生は IT 業界の中でも様々な分野で活躍している人がいることがわかりました。そして意見交換を行うなかで、JPRO でしか得られないものも多くあり貴重な体験ができています。

(2) 学生のみなさんへ一言

情報科学部の卒業生は、在校生の皆さんと交流できる機会を作りたいと思っています。私自身も卒業生と触れ合うことで、情報交換ができ仕事の進め方や家族についての相談など色々アドバイスが受けられました。このような機会を情報科学部で増やし、在校生の就職活動にも活かしてもらいたいです。

(3) 先生方へ一言

今後 JPRO は、情報科学部及び、卒業生、在校生と連携し少しでも有意義な場としていきたい所存です。我々卒業生も JPRO に参加することで、今まで困っていたことなどを相談できる場ができて助かっています。在校生へ、卒業後もフォローアップできる体制があることを示し、自信を持って情報科学科を卒業して欲しいです。そのために、協力していただくことが多々あるかと思うので、お力添えよろしく願いいたします。



※JPRO の活動の様子

5. おわりに

私自身、東京という日本の中心で IT 業界の最前線に立ちつづけ 12 年が経ちました。日々進化を続ける IT 業界の真っ只中で感じることは、IT 業界は間違いなく『時代の最先端』だということです。そしてこれからの IT 業界を創るのはみなさんです。

『IT(=情報科学)』というキーワードを起点に『未来の技術者(=学生)』『IT の先駆者(=卒業生)』『研究者(=先生方)』のつながりが益々活性化し、相乗効果を生む、そんな IT 業界の発展の一助になれば良いと考えています。ぜひ一緒に IT 業界を盛り上げましょう。いつかどこかでお会いできることを楽しみにしています！